

新潟県上越市高田地区の雁木通りにおけるまちづくり活動

Community development on Gangi-Dori of Takada, Joetsu City, Niigata Prefecture

地域／論文

地域キュレーションコース

宮川 実玖

Miyakawa Miku

研究目的

歴史的・伝統的な街並みが残る地域では、まちづくり団体や行政による街並み保存のための活動が多く地域で行われている。本研究は、新潟県上越市高田地区の雁木通りの保存・活用のためのまちづくり活動の現状や、新たな店や施設としての活用状況などを把握し、それらの関係について考察するとともに、雁木通りが保存・活用される要因を明らかにすることで雁木通りの保全のために効果的な方法について考察することを目的とする。



図1 上越市大町5丁目の雁木通り

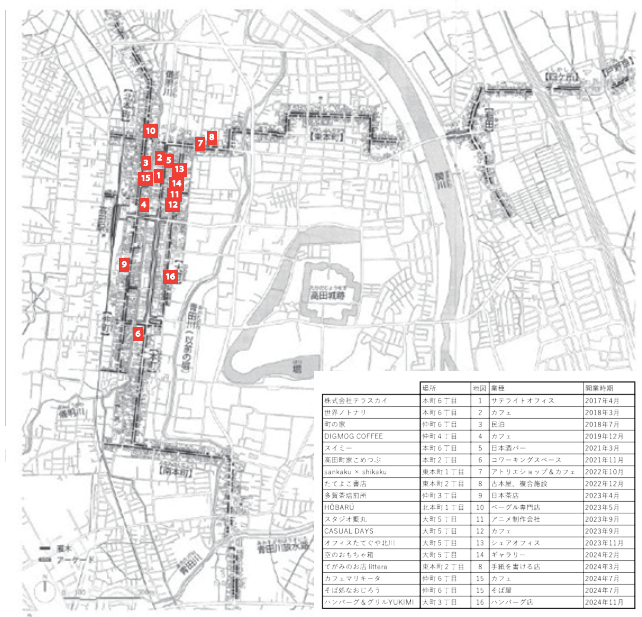


図2 高田の雁木町家と雁木通りの分布(出典:新潟大学建築計画研究室による「町家読本-高田の雁木町家のはなし-」2019年2月編集の図版) 近年の新規出店者を筆者が加筆した。

結果と考察

行政(上越市役所)、まちづくり団体やまちづくり会社などの民間の組織、雁木通りでの新規出店者の三者に対する文献調査、現地調査、ヒアリング調査の結果、上越市では行政が主体となって景観まちづくりを進めていた時期から、現在は地域のまちづくり団体や住民が主体となって雁木通りのまちづくり活動を行い、行政はそのサポートをするという形に移り変わってきていた。また、近年高田地区の雁木通りに増えている新規出店には行政やまちづくり団体による支援が関係していることが明らかになった。高田地区の雁木通りで活動するまちづくり団体には、毎年恒例のイベントなどを行い雁木の魅力発信や地域コミュニティづくりを行う団体や、雁木町家の活用を考えている人に対して空き家の紹介、活用の提案、サポートなどを行う団体があり、近年高田の雁木通りに新しくできた店の多くがこれらの団体と関わりがあった。高田の雁木通りが新規店舗として活用されている要因は、家賃の安さと雁木町家の雰囲気が新しい業態に挑戦してみたい人やクリエイティブな人などにマッチしていること、物件を紹介するまちづくり団体やまちづくり会社によるサポートがあること、商業施設としての町家の利便性、店同士のつながりの深さ、上越市の補助金制度があると考えられる。これらのことから、雁木通りの保存活用に効果的な方法は、大きなお金をかけずに自分の店を持つことに挑戦したい人、町家の雰囲気を活かしてリノベーションしながら店舗設計にこだわっていききたい人、周りとの助け合いながら店を作っていきたい人などをターゲットに店舗としての活用を目指すことであり、このような人々に雁木通りで出店することの利点について知ってもらうことが大切であると考えられる。そのためには行政による雁木通りの整備や補助の事業、そしてまちづくり団体による物件の紹介や活用の提案などの支援と、新しい店を受け入れやすいような地域コミュニティづくりが重要になる。



図3 DIGMOG COFFEE

図4 オフィスたてぐや北川

図5 HÖBARÜ